

# ヨコハマ市民まち普請事業

## 第1次提案書

注1) 3号様式はページを増やさず、必ず2ページ以内でまとめてください。

注2) 3号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は位置図、現況写真、活用イメージ図、その他資料、各A4版1ページ、余白15mm以上としてください。

提案グループ名 (25字以内)	マチヲフルサトニ・トリヤマノスタルジアプロジェクト 町を故郷に・鳥山ノスタルジアプロジェクト
現在の主な活動 内容・活動実績	居場所づくり活動鳥山町の高齢者の居場所を模索するなか「鳥山町居場所づくりプロジェクト」として前身が発足。「とりやまの郷」を立ち上げ、運営は地域活動をしていた居場所づくり濱なかまが中心に行い、その経過報告などを踏まえ鳥山町の居場所づくりについて話し合いを続けてきた。独自拠点をもたず、地域資源（高齢者施設・地域カフェ）で活動をつづけるなかで、行政・事業者・地域団体との連携をつくり、地域全体で居場所づくりに取り組む体制を固めてきた。
提案場所	港北区 鳥山町
提案名 (25字以内)	トリヤマノスタルジアケイカク・マチノアイチャクウムイバシヨヲツクル 鳥山ノスタルジア計画・町への愛着生む居場所を作る
提案する施設（どのような施設の提案ですか）	2021年地域に唯一あったコーヒーの飲める場所であるカフェが閉店。このカフェを利用した地域交流が続けられなくなった。この施設を再開発し、子どもも大人も障害のある人も、安心安全に過ごせる場所を作る。 なお、カフェ設立時に天井をとるガラス張りテラスを作ることで、室温コントロールが難しい建物となっている。運営後のランニングコストを考慮し、エコロジ的な建築方法を活用し、地球環境保全への情報発信を行える施設とする。 将来的には生活・福祉ステーション（地域ホスピス）の拠点機能をもたせるため、集いの場で音楽活動ができる施設としていく。地域活動情報が循環するしくみも組み込む ① スロープやだれもが使いやすいトイレ設置 ② 自然素材で室温コントロールができる内装 ③ 演奏会のできるサロン ④ 地域の掲示板 <p style="text-align: right;">整備費用の概算額：約 500万円</p>
活用イメージ（提案する施設でどのようなことを行いますか）	① 高齢者介護予防事業「とりやまの郷」 ② 地域交流イベント：地域の音楽家などのライブ ③ DIYや庭造りなど体験の場 ④ 生活・福祉の相談支援ステーション（福祉・医療・起業・心理・子育て） ⑤ 食・職の学びの場（ママやシニアの働き場の創生） →カフェ、広告事業、Web運営など ⑥ レンタルスペース
提案の背景（なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）	活動の中心となる濱なかまは2014年の活動スタートの段階から独自拠点をもたずに活動を続けてきた。これまでさまざまな地域資源（高齢者施設やカフェ）を活用しながら、コロナによってそれらの地域資源に入館できないという事態が訪れた。町内会館が坂の上にあるこの地域は、高齢者にとって集まることが難しい地域ともいえる。またこの地域はお茶を飲む店がないのも特徴で、ちょっとしたコミュニケーションをとれる場がアクセスの良い場所にないことが大

い)	きな課題である。福祉・事業者・地域団体がすでに同じ方向をみているこの地域で、足りない物をいっしょに作る経験を得ることで、新しい地域の関係性が生まれると確信する。
目指す地域の将来像（提案を実現することで、どのような地域にしたいと考えますか）	農家が多いこの地域は、古い住人の世襲的な色もあり新しい住民が町内会活動に入りづらい側面がある。町内会でも事業者でも行政でもない団体が主体となり、町のものと一緒に作ることで、地域への新しい参加の仕方が創生される。居場所づくり活動の中心を担う濱なかまは、地域ホスピスをめざす団体である。地域のなかで最期まで自分らしく生活をする、愛する人を愛する地域で見送るために必要な、地域としての機能（傾聴、生活の場、医療、音楽、ボランティア、介護、相談）などが拠点から地域へ発信され循環する地域となる
整備時の協働（つくるときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください	これまでの活動でつながった以下の団体とともに、地域の人に参加できる整備活動を推進したい ① 都筑区KILTA（DIYを使ったコミュニティづくり） ② Co-coya（2021年まち普請採択プロジェクト実施者） ③ 居場所づくり濱なかまメンバー一級建築士
運営時の協働（運営するときに連携する仲間や活用する地域資源注4）に触れて説明してください	地域の子育て支援団体、民生委員・児童委員、そのほか町内会など、すでにさまざまな活動で連携しており、団体の責任者とは拠点運用についても話し合いがはじまっている。別途動いている城郷地域の情報メディアの活用を通して、団体間の垣根を超える経験を積んでいき、メディアも拠点も、城郷の共有資源という意識作りを行って、運用メンバーも募っていきたい
その他提案について特にPRしたい点を記入してください。	このプロジェクトは、城郷の地域福祉保健計画（ひっとぷらん）にもとりあげられる提案です。これまで濱なかまが中心に行っていた活動に対し、ボランティア連絡会など地域の交流の場で意見の交換やそれぞれの活動の場での連携経験を通じて、理解と信頼を得てこの場に進んでこられているのだと思います。 いま、町内会の役員が、地域パトロールの後に濱なかまの「とりやまの郷」でコーヒーを飲み、地域のこと、家族のことを語る時間をもてるようになりました。毎日こんな会話がもてる場が、鳥山町にあったなら・・・そんな話を真剣にきいていただける関係性が、いま地域のなかで生まれています。 何をやるか・・・よりも、この関係性でどこまでできるかにチャレンジしたい！そんな思いでいっぱいです。

注4）「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

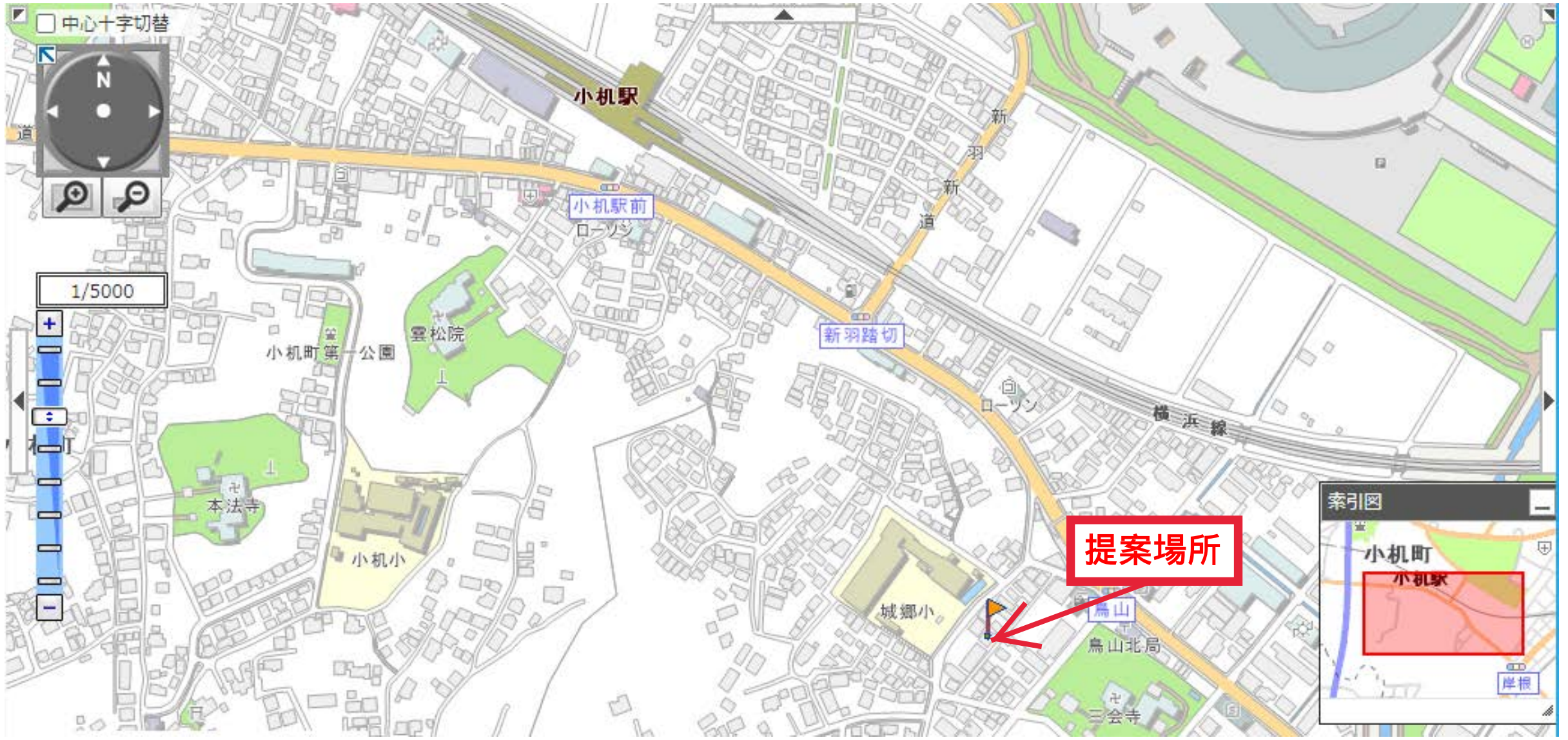
整備場所の地権者等注5）への提案内容及びコンテストに応募することについての説明状況	
説明の相手方	相手方の意見等
ボンラヴィ跡地のオーナー様	現在は倉庫として活用してもらえたら話し合いは継続したい

注5）土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者（会社や行政機関も含む）

記載内容について、次の内容を確認後チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

# 位置図



# 現況写真

(現況地主様が遠方のため中に入れなためカフェ営業時の写真です)



テラス部分

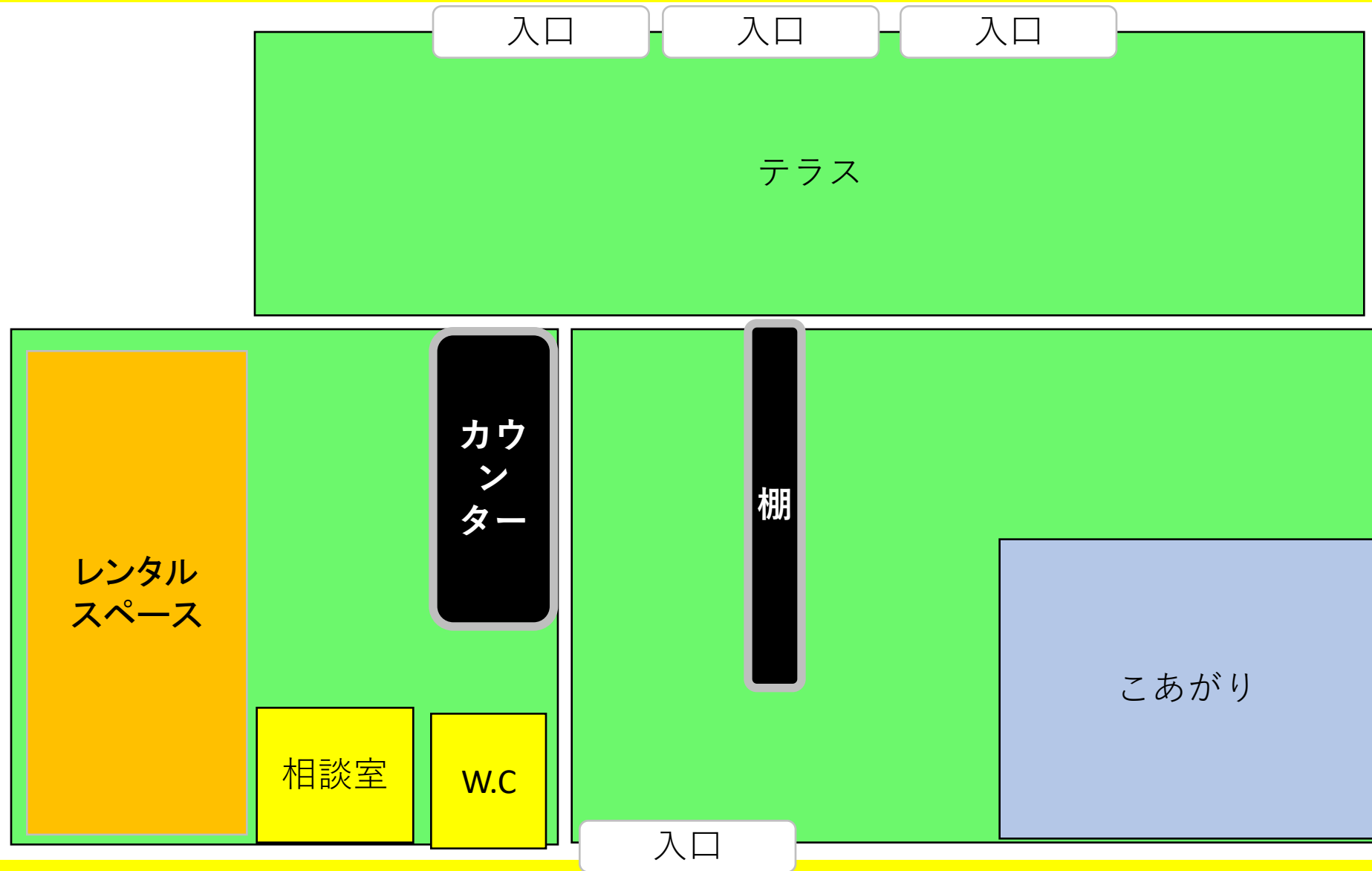


入口アプローチ



テラスより内側の部分

# 活用イメージ



わたしたち  
濱なかまは、

# 心のコリに効く ほど良い OSEKKAI

をしつづけて  
理想の社会を目指します。

わたしたち  
濱なかまは、

愛される日常と  
愛されつづける最期を  
生きる社会

の実現を  
目指します。

濱なかまは

- 城郷の町が「暮らしつづけたい町」となるために町に“愛着”と“利便性”を得られる場所と機会を提供します。
- 城郷の町が、日常も最期のときも豊かに暮らし続けられる町となるためにさまざまな専門的支援を提供（連携）します。
- 「暮らしつづけたい町」でありつづけるために持続可能な運営のしくみを確立します。
- 濱なかまの活動を支える人すべての夢とあわせを実現する場となります。

独自拠点の設置

居場所の創生

公式ローカルメディア設置

福祉／生活支援  
ステーション開設

在宅ホスピス

IT／DX化

事業化

人材発掘・育成